

# 自 己 評 価 書

(平成 2 1 年度)

平成 2 2 年 3 月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
1.	教育課程・学習指導	3
2.	進路指導	5
3.	生徒指導	7
4.	保健管理	10
5.	安全管理	12
6.	組織運営	16
7.	教育目標・学校評価	18
8.	情報提供	19
9.	保護者・地域住民等との連携	21
10.	教育環境整備	23
11.	センター的機能	26
12.	実地教育	28
III	自己評価根拠資料一覧	30

# I 学校の現況及び目的

## 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地
- (3) 学級等の構成
  - 小学部 3学級(複式)
  - 中学部 3学級
  - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(平成21年5月1日)
  - 小学部 18人, 中学部 18人, 高等部 24人
  - 児童生徒数 60人
  - 教員数 29人(正規教員)

## 2 目的

### (1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地峡委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

### (2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また、学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

- ①明るい性格と豊かな人間性を育てる。
  - ②日常生活に必要な習慣や態度を養う。
  - ③生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
  - ④強靱なからだと意志を養う。
  - ⑤集団生活への適正能力を育てる。
- (小学部)
- ①明るくやさしい心を育てる。
  - ②日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
  - ③言語や数量などの基礎的な能力を養う。
  - ④自分の身体に関心を持ち、じょうぶな身体をつくる。
  - ⑤校内を主とした集団での生活に参加できるようにする。
- (中学部)
- ①健康なからだで強い意志を育てる。
  - ②言語や数量などの基礎的な能力を伸ばす。
  - ③生活に必要な基礎的な知識・技能を習得し、実践的な態度を育てる。
  - ④豊かな感受性と表現力を育てる。
  - ⑤人間関係を豊かにし、生活を楽しむ心情を育てる。
- (高等部)
- 自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し、家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。
- ①健康な身体と強い意志力を育てる。
  - ②将来の社会生活に必要な生活技能や言語、数量に関する能力を養う。
  - ③進んで働く意欲と集中力仕事に対する責任感を養う。
  - ④集団生活を通して、青年期の豊かな心情を育てる。
  - ⑤自ら楽しむ豊かな余暇生活を創造する力を養う。
- ### (3) めざす子ども像
- 本校では、学校として、また、学部としての教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。
- 明るく、仲よくできる子ども
  - じょうぶで、元気な子ども
  - よく働く子ども
  - 力いっぱいがんばる子ども

- (小学部)
- やさしい子
  - 元気な子
  - 自分からする子
  - がんばる子
- (中学部)
- 友だちと仲良くできる生徒
  - じょうぶな身体づくりに励む生徒
  - よく働く生徒
  - 好きなことを見つけ楽しむ生徒
- (高等部)
- 自分と仲間を大切にしている生徒
  - 何事にも生き生きと取り組む生徒
  - 意欲的に働く生徒
  - 自ら生活を楽しむ生徒
- (4)平成20年度重点目標
- 鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の5点から教育目標の具現化を図る。
- ①児童生徒の自立と社会参加を目指す。
  - ②基礎基本の習得を図る。
  - ③大学や保護者、地域、関係諸機関との連携を進める。
  - ④特別支援教育のセンターとしての役割を果たす。
  - ⑤実地教育の指導体制の充実を図る。
  - ⑥校舎改修に関わる子ども達の安全確保を図る。
- (5)評価項目
- ①教育課程・学習指導
    - (各教科等の授業の状況)
    - ・児童・生徒の興味・関心など、個に応じた指導方法等の工夫改善の状況
    - (教育課程等の状況)
    - ・小中高の学部感の円滑な接続の工夫の状況
  - ②進路指導
    - ・職場体験活動の実施状況
  - ③生徒指導
    - (生徒指導の状況)
    - ・問題行動への対処の状況
    - (児童生徒の人格的発達のための指導の状況)
    - ・自ら考え、自主的・自律的に行動ができ、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況
  - ④保健管理

- ・日常の健康管理や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組状況
- ⑤安全管理
    - ・学校事故等の緊急事態発生時の対応の状況
  - ⑥組織運営
    - ・校長など管理職の教育目標等達成に向けたリーダーシップの状況
  - ⑦教育目標・学校評価
    - (教育目標・学校評価)
    - ・児童生徒や学校の実態、保護者や地域住民の意見や要望等を踏まえた重点目標の設定状況
    - (学校関係者評価の実施状況)
    - ・学校関係者評価の実施システムの確立状況
    - (学校に対する保護者の意見・要望等の状況)
    - ・学校に対する保護者の意見・要望等の把握・対応の状況
  - ⑧情報提供
    - ・情報提供手段として、学校だよりやウェブページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況
  - ⑨保護者・地域住民等との連携
    - ・学校評議員や保護者との懇談の実施状況
  - ⑩教育環境整備
    - (施設・設備)
    - ・大学と連携した施設・設備の安全維持管理のための点検の取組状況
    - (教材教具等)
    - ・大学と連携した学習・生活環境の充実のための取組状況
  - ⑪センター的機能
    - ・自閉症の児童生徒の指導の研究を深め、ADHD
    - ・高機能自閉症等についての研究や相談の実施状況
  - ⑫実地教育
    - ・実地教育(教育実習)に伴う学生の受け入れ体制の整備状況

## II 評価項目ごとの自己評価

### 評価項目1 教育課程・学習指導

#### (1) 観点ごとの分析

観点1-1 児童生徒の興味・関心など、個に応じた指導方法等の工夫改善ができていますか。

#### 【観点到に係る状況】

教員対象のアンケート結果は「その通り」と「だいたいできている」と答えた者が80%を閉めている。保護者対象では92%である。

「やや違う」や「違う」と答えた教員が15%いる。

資料1-1-①

教職員・保護者アンケート

教育課程・学習指導の評価項目

①各教科等の授業の状況の評価項目

#### 【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)
			4	3	2	1	?	
教育課程・学習指導	①各教科等の授業の状況について 児童生徒の興味・関心など、個に応じた指導方法等の工夫改善ができていますか？	適切に個別の指導計画が作成されているか	20	60	10	5	5	0
		適切に個別の指導計画が運用されているか 教材教具や教室環境について教師工夫がなされているか						

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育課程・学習指導	①各教科等の授業の状況について	適切に個別の指導計画が作成されているか	37	55	4	2	2	0	
	児童生徒の興味・関心など、個に応じた指導方法等の工夫改善ができていますか？	適切に個別の指導計画が運用されているか							18

【分析結果と根拠理由】

教員がほぼ達成としている根拠は、個別の指導計画の運用が軌道に乗り、児童生徒の目標をふまえて授業や日常生活の指導ができていているということだと考える。

一方、評価できない理由は、今年度 小・中学校からの新転入の教員が多く、授業の形態や指導計画の立て方に不慣れで、十分な指導ができたかを反省するというものであると考える。

観点1-2 小中高の学部間の円滑な接続の工夫ができていますか。

【観点到に係る状況】

教員の回答は75%の者がだいたいできていているとしている。保護者はだいたいできていているとしている方が59%となっている。わからない方が27%である。

教員の回答であまりできていないと感じている者は25%いる。

資料1-2-①

教職員・保護者アンケート

教育課程・学習指導の評価項目

②教育課程等の状況

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育課程・学習指導	①教育課程の状況について	小・中・高にわたって系統性・一貫性のある指導・支援が行われているか	0	75	20	5	0	0	
	小・中・高の学部間の円滑な接続の工夫ができていますか	次の学部に進学する際に、教育情報の引き継ぎが円滑にできていますか							0

**【保護者用】**

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育課程・学習指導	①教育課程の状況について	小・中・高にわたって系統性・一貫性のある指導・支援が行われているか	18	41	10	2	27	0	
	小・中・高の学部間の円滑な接続の工夫ができてきているか	次の学部に進学する際に、教育情報の引き継ぎが円滑にできているか	9	20	5	1	13	0	

**【分析結果と根拠理由】**

個人の引き継ぎは、個別の支援計画をはじめ、指導計画、尺度表、サポートブック、スケジュールの伝達などで綿密におこなわれている。担任同士はもちろん、学部全員の場合で引き継ぎ、全員が児童生徒の理解に努めている。しかし、学部間で各教科や教科・領域を合わせた指導のあり方の検討や、学部で指導することの接続は十分に行われていない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

**【優れた点】**

- ・ 個別の指導計画の運用が軌道に乗り、個に応じた目標設定と手だてを講じることはできてきている。
- ・ 個人レベルでの引き継ぎは年間計画にも組み入れ、綿密に行われている。

**【改善を要する点】**

- ・ 個に応じた指導方法や教材教具の開発を研究・研修することが各教員に求められている。
- ・ 学部間で教育課程のあり方や組み方、指導内容について、連携を取りながら検討する必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目2 進路指導

(1) 観点ごとの分析

**【観点到に係る状況】**

観点 2-1 職場体験活動の実施は適切に実施されているか。

教員については95%、保護者については59%から「妥当である」との評価が得られた。また、保護者からの評価では、27%が判断できないと答えている。

資料 2-1-①  
 教職員・保護者アンケート  
 進路指導の評価項目  
 職場体験活動の実施の状況

**【教職員用】**

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					
			上段(パーセント)・下段(人数)					
			4	3	2	1	?	未記入
進路指導	①職場体験の実施状況について 職場体験活動は適切に実施されているか	就業体験の場・期間・内容は適切であるか	45	50	0	0	5	0
		進路指導において有効なものとなっているか	9	10	0	0	1	0
		就業体験を学校全体の取り組みとする工夫はあるか						

**【保護者用】**

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					
			上段(パーセント)・下段(人数)					
			4	3	2	1	?	未記入
進路指導	①職場体験の実施状況について 職場体験活動は適切に実施されているか	就業体験の場・期間・内容は適切であるか	18	41	10	2	27	0
		進路指導において有効なものとなっているか	9	20	5	1	13	0
		就業体験を学校全体の取り組みとする工夫はあるか						

**【分析結果と根拠理由】**

教員については、本校が、進路支援の中でも、職場体験実習を重視していることが浸透していると考えられるが、保護者にはなかなか伝わっていないことが伺える。特に、小学部の保護者にとっては、他学部のことであるという認識が占めているのではないかと推察される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

**【優れた点】**

- ・生徒のニーズに応じた就業体験ができています。



### 【改善を要する点】

- ・保護者のウォンツと教員や関係機関の担当者が把握する生徒のニーズとの違いを認識した上で、保護者に丁寧に説明し、支援を進める必要がある。
- ・正確な情報の収集に心がけるとともに、事実とは異なる認識を排除し、意識の変革を促すために、保護者に対する進路説明会等を適切な機会に実施する必要がある。また、保護者との適切なやりとりが必要である。
- ・学校全体で、一貫した進路支援や小学部段階から系統的なキャリア教育を進める必要がある。
- ・学校全体で、一般就労に係る支援を系統的に行えるような取り組みが今後必要である。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B達成されている」と判断する。

## 評価項目3 生徒指導

### (1) 観点ごとの分析

観点3-1 問題行動への対処は適切になされているか。

#### 【観点到に係る状況】

発達段階及び障害特性を理解しての適切な対応ができているか、対応については教員間の共通理解ができているかの評価基準に対して、60%の職員が「だいたいできています」と評価をしている。40%の職員が「やや違う」という評価をしている。

保護者についても、77%の保護者が「だいたいできています」という評価をしているが、「やや違う」という評価している保護者が20%のいる。

資料3-1-①

教職員・保護者アンケート

生徒指導の評価項目

① 生徒指導の状況

- ・ 問題行動への対処の状況

### 【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
生徒指導	①生徒指導の状況 問題行動への対処は適切にできているか	発達段階及び障害特性を理解しての適切な対応ができているか	15	45	40	0	0	0
		対応について、教員間の共通理解ができているか	3	9	8	0	0	0

### 【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
生徒指導	①生徒指導の状況 問題行動への対処は適切にできているか	発達段階及び障害特性を理解しての適切な対応ができているか	20	57	18	2	2	0
		対応について、教員間の共通理解ができているか	10	28	9	1	1	0

### 【分析結果と根拠理由】

40パーセントの教員が、発達段階や障害特性を理解しての適切な対応や共通理解ができていないと回答している。近年の人事異動等に伴う大幅な教員の入れ替わりに対応しての、学校全体での研修体制等の取り組みが十分でないと感じているものと考えられる。

保護者アンケートの結果では、77%が「だいたいできている」と評価をしている。しかし、その反面、教員間での共通理解や障害に対する理解度に差がある。また、学校での指導が家庭に般化できにくいことからの不満と思われる厳しい意見が、保護者から上がっている。生徒指導に関しては、家庭と学校が密に連携を取りながら、個々に合った適切な対応を心がけていくことが望まれる。保護者の意見にあるように、「もっと理解して、ゆっくりと、共に考えてほしい」という取り組みを見直す姿勢が重要である。

観点3-2 自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導がなれしているか。

### 【観点到に係る状況】

教育活動の中で、「個々の児童生徒が自分の役割を自覚して取り組み、かつ成就感を味わえるような活動の設定や指導ができているか」「ソーシャルスキルに関する指導が適切に行われているか」については、70%の職員が「できている」と評価をしている。保護者の評価でも、84%が「だいたいその通りである」と評価をしている。

## 資料 3-2-①

教職員・保護者アンケート

生徒指導の評価項目

## ① 生徒指導の状況

- ・ 児童生徒の人格的発達のための指導の状況

## 【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
生徒指導	① 児童生徒の人格発達のための指導の状況について	教育活動の中で、個々の児童生徒が自分の役割を自覚して取り組み、かつ成就感を味わえるような活動の設定や指導ができていますか	5	65	25	0	5	0	
	自ら考え、自主的・自立的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導ができていますか	ソーシャルスキルに関する指導が適切に行われているか	1	13	5	0	1	0	

## 【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
生徒指導	① 児童生徒の人格発達のための指導の状況について	教育活動の中で、個々の児童生徒が自分の役割を自覚して取り組み、かつ成就感を味わえるような活動の設定や指導ができていますか	29	55	6	0	10	0	
	自ら考え、自主的・自立的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導ができていますか	ソーシャルスキルに関する指導が適切に行われているか	14	27	3	0	5	0	

職員、保護者とも高い評価を得ている。「携帯電話などのやりとりが以前より、スムーズである。」「家庭でも自分の役割・お手伝いを進んでしてくれている。」という意見が上がっている。ソーシャルスキルに関する授業や指導が、評価につながっているといえる。児童生徒の行動に対して、適切な賞賛や強化について指導が行われていることが挙げられる。できることは増えてきているが、精神的（反抗期、思春期）な問題点があるように感じている保護者もあり、人格発達のための指導については、心理的な安定の上に、社会的なルールやマナーを身につけていけるよう取り組んでいくことが大切である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 児童生徒会活動を通じての生徒主体の学校運営
- ・ ソーシャルスキルを中心とした授業の持ち方や工夫した指導

【改善を要する点】

- ・ 困ったときや助けてほしいときのヘルプの出し方に対する指導の工夫
- ・ 学校－家庭との共通理解の上での指導方針
- ・ 障害特性の捉え方の双方の理解不足

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目4 保健管理

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組の状況

【観点到係る状況】

日々の健康観察、体調の不調を訴えたり、衣服の調節ができるような指導、疾病の予防対策、健康に関する事項(インフルエンザ感染等)について、保護者は90%、教職員は85%が適切な取り組みができているという評価を示している。

資料4-1-①

教職員・保護者アンケート

保健管理の評価項目

①日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の事故健康管理能力の向上のための取り組みの状況 等

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
保健管理	① 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の事故健康管理能力の向上のための取り組みの状況について  日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の事故健康管理能力の向上のための取り組みの状況について	児童生徒の健康観察を、日々入念に行っているか	20	65	5	0	5	0
		体調の状態を訴えたり、自主的に衣服の調節ができるように指導しているか 進んで疾病の予防対策(手洗いやうがい等)ができるように指導しているか	5	13	1	0	1	0
		児童生徒の健康に関する事項(インフルエンザ感染等)についての対応・指導は行われているか						

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
保健管理	① 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の事故健康管理能力の向上のための取り組みの状況について  日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の事故健康管理能力の向上のための取り組みの状況について	児童生徒の健康観察を、日々入念に行っているか	45	45	8	2	0	0
		体調の状態を訴えたり、自主的に衣服の調節ができるように指導しているか 進んで疾病の予防対策(手洗いやうがい等)ができるように指導しているか?	22	22	4	1	0	0
		児童生徒の健康に関する事項(インフルエンザ感染等)についての対応・指導は行われているか						

資料4-1-②

① 新型コロナウイルスに対する対応について

② ほけんだより

### 【分析結果と根拠理由】

次のような取り組みが効果を上げているのではないかと考える。

- ・ 保健だよりを通じて、保護者の方に登校前の健康観察をお願いし、体温表も配布している。そのため、送迎時や連絡帳で児童生徒の体調について細かく連絡していただくことができ、担任や養護教諭による健康観察によって、疾病異常の早期発見につながっている。
- ・ 養護教諭が、手洗い、検温など健康管理能力の基本となる事項について保健指導を行い、その際に使用した教材を担任にも活用してもらえ、繰り返し指導ができています。
- ・ 保護者、教職員に新型インフルエンザについての情報提供を行い、また、新型インフルエンザに関するガイドラインを策定することにより、新型インフルエンザの感染拡大を予防することができた。
- ・ 感染症予防のために環境整備を行い、体温計、手指消毒剤、シャボネット、マスクなどを各クラスに備えた。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

- ・ 専門性を生かし、児童生徒や保護者、教職員に分かりやすい情報提供ができた。
- ・ 健康観察に関して、保護者、担任、養護教諭で密に連絡を取り合うことができた。
- ・ うがいや手洗いの声かけ、手指消毒の徹底がなされている。

#### 【改善を要する点】

- ・ 健康観察以外での児童生徒のヘルスニードの把握について検討。
- ・ 児童生徒の健康状態やヘルスニードの共有方法や活用方法の検討。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目5 安全管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点5-1 学校事故等の緊急事態発生時の対応の状況

#### 【観点到係る状況】

「校舎改修等に関わる学校事故について」「防止対策や発生時の対応の体制作りができていないかについて」「適切な安全教育が実施されているか」「避難訓練等が適切に実施されているか」については、90%の高い評価が保護者アンケートより出ている。

資料 5 - 1 - ①

教職員・保護者アンケート

安全管理の評価項目

①緊急事態発生時の対応について

②校舎改修等に関わる学校事故防止について

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
安全管理	緊急事態発生時の対応について	適切な安全教育が実施されているか	1 5	4 5	3 5	5	0	0
	校舎改修等に関わる学校事故防止について、防止対策や発生時の対応についての体制作りができているか	適切な危機管理マニュアルが作成され、周知されているか 避難訓練等が的 セルに実施され ているか	3	9	7	1	0	0

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
安全管理	緊急事態発生時の対応について	適切な安全教育が実施されているか	4 5	4 5	2	4	4	0
	校舎改修等に関わる学校事故防止について、防止対策や発生時の対応についての体制作りができているか	避難訓練等が適切に実施されているか	2 2	2 2	1	2	2	0

資料 5 - 1 - ②

安全管理

①緊急事態発生時の対応の状況について

- ・地震・津波避難訓練実地計画
- ・不審者侵入時の避難訓練実地計画
- ・不審者マニュアル
- ・放水訓練
- ・火災避難訓練・工事期間安全教育  
9月・1月 実地計画
- ・火災発生時のマニュアル

### 【分析結果と根拠理由】

保護者からは90%の高い評価を得ているが、職員からは60%が「だいたいそのとおり」である。しかし、40%が「やや違う」の評価をあげている。校舎改修工事の一年であり、職員は引っ越し作業等に追われ、やや安全面や営繕に関する点検ができにくい状況にあったと言える。また、耐震化工事に伴って、通常行われている運営での避難訓練ができなかったことも要因としてあげられる。しかし、月一回の「学校安全の日」、地震・火事・不審者等の避難訓練を実施して、万が一の場合の心がけと対応方法の定着が図られた。今後、危機管理マニュアルの利用や周知を十分に行うと共に、職員一人一人が緊急時に落ち着いた対応ができるように取り組んでいきたい。さらに、機会を設けて、警察、消防署、警備員、地域の方々との連携した訓練の実施を行っていくことを心がけたい。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

- ・状況や場面に応じた対応での避難訓練が実施できた
- ・耐震化工事の中で、安全教育を徹底できた
- ・工事関係者との連携や警備員の配置の徹底がなされた

#### 【改善を要する点】

- ・危機管理マニュアルの有効利用
- ・緊急時の対応について
- ・個人の緊急時や困ったときの対応に対する指導の徹底

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目6 組織運営

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1 校長など管理職が教育目標達成に向け、リーダーシップがとれているか。

#### 【観点到る状況】

昨年度、この項目は、職員の95%~75%ができていると答えていた。今年度は、多少評価基準が変わっているものの、30%と急激に降下している。昨年11月、労働基準監督署の査察が入ったが、その時の混乱以降、このような状況が認められるようになっている。対称的に、保護者アンケートの結果は、昨年度に較べてできているという回答のパーセンテージが、平均で12%弱上昇している。



## 資料 6-1-①

教職員・保護者アンケート

組織運営の評価項目

- ・ 校長など管理職が教育目標達成に向け、リーダーシップの状況

## 【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
組織運営	①校長など管理職が教育目標に向け、リーダーシップの状況について 教育目標達成に向けてのリーダーシップを発揮できているか	教育目標の周知ができているか	0	30	45	15	10	0
		教育目標達成に向けた速やかな指示や判断ができているか 効率的な学校運営ができているか	0	6	9	3	2	0

## 【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
組織運営	①校長など管理職が教育目標に向け、リーダーシップの状況について 教育目標達成に向けてのリーダーシップを発揮できているか	教育目標の周知ができているか	31	39	8	0	20	0
		教育目標達成に向けてのリーダーシップが発揮できているか	15	19	4	0	10	0

## 【分析結果と根拠理由】

リーダーシップの批判は、労働基準監督署の査察によるところが大きい。この件で、管理者側は、大学側と是正勧告に向けた対応を協議することはできた。しかし、労働基準法の中核的対象となっている企業の実態とは異なり、学校は、単純に仕事量を減らし労働時間を削減しては、子どもの安全性や教育内容の低下につながる。ただ、労働者側の不利益になるような提案を、管理職側からすることはできない状況だった。そのため、校内での対応は、労働者側の協議に委ねざるを得なかった。混乱解消の大きな力となった内規の策定は、労働者側の自主的な働きによるものだった。この取り決めにより混乱は沈静化した。管理職のリーダーシップに対する不満は大きいものがある。

保護者への対応としては、管理職から、昨年 of 新聞報道の時期に、一度経過報告を行った。後に、内規のガイドラインに基づいた経営の方向を固め、ある程度具体的な内容を報告できるようにしてから説明会を開き、そのときの報告文書を全保護者に配布した。問題が大きいため、対応に手間取り、時期的には非常に遅くならざるを得なかった。ただ、保護者の混乱を緩和する上での効果は認められた。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・ 混乱を校内に留め、今後の改善の足場を固めている。

### 【改善を要する点】

- ・ 学校経営方針の具体化と組織運営の改善を積極的に実施していく必要がある。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

職員や保護者とのコミュニケーションを十分に図る必要がある。問題が複雑で、まだ、状況の正しい把握がされていないところがある。かなり力を入れて取り組んでいるが、種々の困難な条件があり、成果につながるのに時間を必要とする。

以上の内容を総合し、4段階評価中の「C 取り組まれているが、成果が十分でない」と判断する。

## 評価項目7 教育目標・学校評価

### (1) 観点ごとの分析

観点7-1 児童生徒や学校の実態、保護者や地域住民の意見や要望等を踏まえた重点目標が設定されているか。

### 【観点到係る状況】

達成されていると答えた職員は、昨年より21%減り(78%→57%)、保護者は11%増え(56%→67%)ている。校内では、来年度の学校経営や教育の目標を、職員の意見を踏まえて作成している時期と、このアンケートをとった時期が重なっている。

資料 7-1-①

教職員・保護者アンケート

教育目標・学校評価の評価項目

① 教育目標・学校評価

- ・ 児童生徒や学校の実態や、保護者や地域住民の意見や要望等を踏まえた重点目標の設定

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
教育目標・学校評価	①教育目標・学校評価について 児童生徒や学校の実態や、保護者や地域住民の意見や要望等を踏まえた目標設定ができているか	学校経営の重点目標は、児童生徒の実態を踏まえたものとなっているか	15	40	30	0	15	0
		学校経営の重点目標は、学校の実態を踏まえたものとなっているか？ 学校経営の重点目標は、保護者や地域住民の意見や要望を踏まえたものとなっているか	3	8	6	0	3	0

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
教育目標・学校評価	①教育目標・学校評価について 児童生徒や学校の実態や、保護者や地域住民の意見や要望等を踏まえた目標設定ができているか	学校経営の重点目標は、児童生徒の実態を踏まえたものとなっているか	10	57	8	6	18	0
		学校経営の重点目標は、学校の実態を踏まえたものとなっているか 学校経営の重点目標は、保護者や地域住民の意見や要望を踏まえたものとなっているか	5	28	4	3	9	0

観点 7-2 学校関係者評価の実施システムが確立されているか。

【観点に係る状況】

学校関係者評価に対する職員の評価は、単純に昨年と比較することはできないが、達成さ

れているという回答が約26%減少している(66%→40%)。反対に、保護者の評価は、昨年よりも約26%高く(19%→45%)になっている。

資料7-2-①

教職員・保護者アンケート

教育目標・学校評価の評価項目

② 学校関係者評価の実態状況

- ・ 学校関係者評価の実態システムの確立状況

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育目標・学校評価	②学校関係者評価の実態状況について	学校関係者評価委員会が、年2回以上開かれているか	10	30	25	0	7	0	
	学校関係者評価の実態システムの確立ができているか	学校関係者評価の結果が学校運営に活かされているか	2	6	5	0	35	0	

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育目標・学校評価	②学校関係者評価の実態状況について	学校関係者評価の結果が学校運営に活かされているか	8	37	2	6	47	0	
	学校関係者評価の実態システムの確立ができているか		4	18	1	3	9	0	

【分析結果と根拠理由】

学校経営や教育の目標は、具体的に実践現場でどのように実現していくかが明確になりにくい状況があった。現在、実際にPDCAのマネジメントサイクルの中で活用できるよう、学校評価の改訂を行っている。また、来年度に向けてSWOT分析などの技法を用い、重点目標を作りつつある。そのような取り組みの中で、職員も目標というものについての認識が少しずつ変化しているのではないかと考える。また、保護者は、目標という非常に評価しづらい項目であるが、学校に対し好意的に評価してくださっている傾向が増えている。しかし、自由記述を読むと、学校側がしっかりと受け止めなければならない意見が多数ある。このことについて、対応していく必要がある。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・ 学校経営目標や重点目標についての職員の認識を高める働きかけ
- ・ P D C Aの中で活用できる学校評価への改良

### 【改善を要する点】

- ・ 具体的実践の方向を指し示すことの出来る学校経営目標や学校教育目標等の作成
- ・ 現場に生かせる学校評価の作成
- ・ 保護者の意見の受け止めと対応

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目8 情報提供

### (1) 観点ごとの分析

観点8-1 情報提供手段として、学校便りやホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況

### 【観点到に係る状況】

教員の回答は、「できている」「ほぼできている」との評価が90パーセントを占めている。

保護者は86%の方が同じように評価している。

#### 資料8-1-①

教職員・保護者アンケート

情報提供の評価項目

- ・ 情報提供手段として、学校便りやホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況

### 【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
情報提供	①情報提供に関する工夫について  学校便りやホームページの活用等、学校に関する情報を、広く周知するための工夫ができていますか	・学校便りや学部便りを定期的に発行しているか	35	55	10	0	0	0
		・ホームページの更新は、適切に行われているか	7	11	2	0	0	0

### 【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
情報提供	①情報提供に関する工夫について  学校便りやホームページの活用等、学校に関する情報を、広く周知するための工夫ができていますか	・学校便りや学部便りを定期的に発行しているか	27	59	6	2	6	0
		・ホームページの更新は、適切に行われているか  ・参観日の回数や実施方法は適切であるか	13	29	3	1	3	0

### 【分析結果と根拠理由】

・学校便りについては、年2回7月と3月に発行している。施設や、先輩の先生方にもお送りし、広く活動の様子をお知らせしている。児童生徒の様子をたくさんの写真も交えて伝えているので、保護者にとっても身近なお便りとして届いていると考えられる。

ホームページについては、今年は月予定表を毎月更新して入れたり、学校便りもピックアップして載せるようにした。アクセスも多いようである。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

・学校便り、ホームページともに工夫を図り、全教員の協力の下、積極的に推進している。

#### 【改善を要する点】

・学部便りについては、各学部間で統一がなされていないようだった。次年度は、話し合っ て偏りのないようにしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目9 保護者・地域住民との連携

(1) 観点ごとの分析

観点9-1 保護者や地域住民との連携は適切に行われているか

【観点に係る状況】

保護者との連携については、職員・保護者ともに8割を超える回答が、「達成している」となっている。しかし、地域との連携については、達成しているのパーセンテージが、職員で70%、保護者64%と、今ひとつのところである。実際に、地域の方々からはたくさんの支援をいただいております、学校からの便りや話の中に入れているが、まだ広報が十分ではないことがわかる。毎年本校を会場として行っている学校展を、本年度は耐震化工事の関係で、障害者交流プラザで行った。

資料9-1-①

教職員・保護者アンケート

保護者・地域住民等との連携の評価項目

・ 保護者との連携について

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果		上段(パーセント)・下段(人数)			
			4	3	2	1	?	未記入
保護者・地域住民との連携	①保護者との連携について 保護者の意見や要望を把握し、適切な対応ができていますか	・保護者の要望が個別の教育支援計画に反映されているか	35	55	10	0	0	0
		・保護者との意志疎通ができていますか ・保護者の要望に適切な対応ができていますか ・保護者への情報提供が適切に行えているか	7	11	2	0	0	0

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果 上段(パーセント)・下段(人数)					
			4	3	2	1	?	未記入
保護者・地域住民との連携	①保護者との連携について 保護者の意見や要望を把握し、適切な対応ができていますか	・保護者の要望が個別の教育支援計画に反映されているか ・保護者との意志疎通ができていますか ・保護者の要望に適切な対応ができていますか ・保護者への情報提供が適切に行えているか	43	41	12	2	2	0
			21	20	6	1	1	0

資料 9-1-②

教職員・保護者アンケート

保護者・地域住民等との連携の評価項目

・ 地域住民との連携について

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果 上段(パーセント)・下段(人数)					
			4	3	2	1	?	未記入
保護者・地域住民等との連携	②地域住民との連携について 積極的に地域住民との連携を図っているか	・地域に対して、積極的に行事等の広報を行っているか ・地域住民との交流の機会を持つように努めているか	15	55	25	0	0	0
			3	11	5	0	0	0

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果 上段(パーセント)・下段(人数)					
			4	3	2	1	?	未記入
保護者・地域住民等との連携	②地域住民との連携について 積極的に地域住民との連携を図っているか	・地域に対して、積極的に行事等の広報を行っているか ・地域住民との交流の機会を持つように努めているか	18	47	12	0	20	2
			9	23	6	0	10	1

【分析結果と根拠理由】

耐震化工事の影響で、作業の日程や騒音・振動などの状態について連絡していた。工区の違いで送迎の乗降場所が変わったりしたため、綿密な連絡を取る必要があった。さらに、保護者の要望が生かされるものとして、個別の教育支援計画が認められてきている。反面、子どもの搜索や挨拶の指導、環境整備など、地域に支えられている本校の実態は、まだ周知が不十分であり、交流の機会などを考えていく必要がある。



## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・ 保護者との連携については、今後もこの調子でさらに努力を続けていきたい。

### 【改善を要する点】

- ・ 就業時間を有効に利用して、保護者との連携が図られるような工夫が必要である。
- ・ 地域との連携に力を入れ、広報などの活動も行われなければならない。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

耐震化工事の影響で、昼食や引っ越し作業、児童生徒の送り迎えの問題などが浮上したが、保護者の協力を得て解決することができた。その結果として、保護者との交流が進んだと考えられる。保護者の要望が個別の教育支援計画に反映されたり、意思疎通ができたりしているかということについては、時間の工面をして、達成されたと考えられる。しかし、今後、職員の休憩時間の問題や就業時間のことと絡めて、注意深くよりよい方向を模索していく必要がある。地域との交流は、積極的に推し進めて行かなければならない。

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目10 教育環境整備

### (1) 観点ごとの分析

観点 10 - 1 大学と連携した施設・設備の安全維持管理のための点検の取組が適切になされているか。

### 【観点到係る状況】

今年度は、耐震化工事に対する安全維持管理が大きな課題であった。しかし、教頭を中心に、工事関係者と大学と学校が、毎週1回集まり、安全確保や児童生徒の生活上の課題について話し合ってきた。そのため、工事場所の塀やガードマンの交通誘導など、徹底した安全維持管理の下で事故は起こらないまま完了することができた。

ただ、職員や保護者のアンケートには、そのような取り組みの様子があまり反映されていない。

資料 10 - 1 - ①

教職員・保護者アンケート

教育環境整備の評価項目

① 施設・設備

- ・ 大学と連携した施設・設備の安全維持管理のための点検の取組状況

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育環境整備	①施設・設備について	・施設・設備の安全維持管理のための点検を適切に行っているか	15	35	25	0	25	0	
		・施設・設備の安全維持管理における大学との連携は十分にとれているか	3	7	5	0	5	0	

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育環境整備	①施設・設備について	・施設・設備の安全維持管理は、充実していると思うか	32	37	8	0	18	0	
			16	18	4	0	9	0	

【分析結果と根拠理由】

工事中は、通常の状態とは危険性の度合いが全く違っている。大型重機の運転やトラックの往来など、職員も保護者も目の前の危険から子どもを守ることで手がいっぱいの状態だった。安全面での配慮がどのようになされても、普段に較べると危険であることは変わらない。そのことがアンケートの結果にも表れていると考える。

観点 10 - 2 大学と連携した学習・生活環境の充実のための取組がなされているか。

【観点に係る状況】

教材教具などについても、大学の特別支援教育専攻と教育研究支援プロジェクトに参加し、その費用を配分いただくことができた。

また、高度情報教育研究センターからは、本校の情報の維持や安全管理に大きなサポートをいただいている。

ただ、このことも職員や保護者には見えにくい部分である。

資料 10 - 2 - ①

教職員・保護者アンケート

教育環境整備の評価項目

② 教材教具等

- ・ 大学と連携した学習・生活環境の充実のための取り組み状況

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育環境整備	②教材教具等について 大学と連携した学習・生活環境の充実のための取り組みができているか	・特別支援教育専攻等との研究連携を積極的に行っているか	5	35	30	0	30	0	
			1	7	6	0	6	0	

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
教育環境整備	②教材教具等について 大学と連携した学習・生活環境の充実のための取り組みができているか	・学習・生活環境充実のための取り組みは、十分にできているか	16	48	12	4	16	0	
			8	24	6	2	8	0	

【分析結果と根拠理由】

大学との連携による、教材教具等の整備も、なかなか見えにくい部分であることはまちがいない。実際に行われている連携が、もっと広報できる方法を模索していく必要がある。

特別支援教育専攻の先生方との連携は、本校の職員の指導力を向上させる上からも、重要である。指導力向上と施設設備、教材教具の充実が、広い意味での教育環境整備の充実につながるようにしたい。

高度情報教育研究センターとの連携は、子どもたち、特に高等部の子どもたちの生活に大きな変化をもたらす可能性がある。今後、授業との関連でも有効な連携の在り方を探っていきたい。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・大学の専攻の先生方との研究協力は、ここ数年続いている。
- ・高度情報教育研究センター等の機関との連携も、充実してきている。

### 【改善を要する点】

- ・特別支援教育専攻や高度情報教育研究センターの先生方との、連携の質を高める工夫が必要である。
- ・連携の様子をどのように広報するか、工夫する。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目 1 1 センターの機能

### (1) 観点ごとの分析

観点 1 1 - 1 自閉症の児童生徒への指導の研究を深め、AD/HD・高機能自閉症等についての研究や相談の実施状況

### 【観点到に係る状況】

教員については、肯定的な評価が85%、否定的な評価が10%、判断できないの回答が5%であった。保護者については、肯定的な評価が40%、否定的な評価が1%、判断できないの回答が57%であった。

#### 資料 11 - 1 - ①

教職員・保護者アンケート

センター的機能の評価項目

- ・自閉症の児童生徒への指導の研究を深め、AD/HD・高機能自閉症等についての研究や相談の実施状況

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
センター的機能	①センター的機能についての実施状況  自閉症の児童生徒への指導の研究を深め、AD/HD・高機能自閉症等についての研究や相談に取り組んでいるか	・相談活動を熱心に進めているか	25	60	0	10	5	0	
		・県内の諸機関への研修協力を積極的に行っているか							
		・発達障害に関する研究に積極的に取り組んでいるか	5	12	0	2	1	0	

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
センター的機能	①センター的機能についての実施状況  自閉症の児童生徒への指導の研究を深め、AD/HD・高機能自閉症等についての研究や相談に取り組んでいるか	・小学校・中学校等への相談活動・研修支援活動が活発にできているか	8	32	2	0	57	0	
			4	16	1	0	28	0	

資料 11-1-②

①平成21年度 校外支援実績数

平成21年度 校外支援実績数 平成22年3月10日現在

支援内容	件数(件)
教育相談	40
諸検査の実施	3
研修会講師派遣	18
研修会開催	8
共同事例研究	5
情報提供	2
学校見学	15
検査器具, 教材・教具等貸与	2
施設提供	6
福祉施設, NPO法人等への協力	5
計	104

### 【分析結果と根拠理由】

教員より85%の肯定的評価が得られたことは、校外支援が、校内の協力体制のもと、学校全体の取り組みとして浸透してきた成果と考えられる。しかし、少数ではあるが、否定的な評価もある。県立の特別支援学校に比べると、人的条件から対応できる件数が限られているため、否定的な評価になったのではないかと推測する。

保護者の回答では、「判断できない」が過半数を占めていた。このことから、校外への支援活動が、学校の重要な取り組みの1つとして十分に広報できていないことが原因として考えられる。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

- ・大学の附属校であるという特色を生かし、大学と連携した支援や研修を実施することができた。
- ・校内の協力体制のもと、人的リソースを生かして、教育相談や研修協力に取り組むことができた。

#### 【改善を要する点】

- ・人的条件により、校外に出向いて直接的な支援を数多く実施することは難しい状況である。地域の要請に応えるためにも、校内体制を整え、校外支援にあたることができる人材、時間の確保が必要である。
- ・支援部だよりを年に4回発行し、校外支援の活動報告などを行っているが、関心をもって見ていただけるように、内容や紙面の工夫等に取り組みたい。さらに、保護者会や役員会において、広報や啓発のための働きかけも必要ではないかと考える。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目 1 2 実地教育

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 1 2 - 1 実地教育の受け入れ体制の整備

#### 【観点到係る状況】

85%の教員が4、3の肯定的な評価であった。割合は低いものの1の評価があった。保護者に関しては、4、3の評価とわからないの回答が多かった。

資料 12 - 1 - ①

教職員・保護者アンケート

実地教育の評価項目

- ・ 実地教育の受け入れ体制の整備

【分析結果と根拠理由】

受け入れの体制については、整備の途中であるが、ほぼ現在の進捗状況できていると評価した教員が多い。毎年同じ実習を繰り返さず、学生の意見を取り入れるために、今年は学びたい項目についてアンケートを行った。また、教員に流れがわかりやすい実習となるために、日程の一覧表を出したり、評価方法の整備に取り組んだりしている。この点が評価されたと考える。

【教職員用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
実地教育	①実地教育の受け入れ状況について  教育実習生の受け入れ体制についての整備ができていますか	・アンケート等を実施し、実習生の声を次の実地教育に生かしているか  ・充実した指導ができるよう、学校全体で受け入れ体制の整備ができていますか	25	60	10	5	0	0	
			5	12	2	1	0	0	

【保護者用】

評価項目	観点	評価規準	アンケート結果					上段(パーセント)・下段(人数)	
			4	3	2	1	?	未記入	
実地教育	①実地教育の受け入れ状況について  教育実習生の受け入れ体制についての整備ができていますか	・教育実習期間中も、児童生徒の指導・支援は、通常と変わらずにできているか	24	55	6	0	14	0	
			12	27	3	0	7	0	

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 実習に向けての環境整備や指導内容の工夫に取り組んでいる。
- ・ 実習を行う学生からの意見を求め、指導内容を考えるよう取り組んでいる。
- ・ 評価方法の一律性を図る取り組みをはじめている。

【改善を要する点】

・より実り多い実習となるよう、教師の指導力の向上、指導の一貫性、指導内容の充実を図りたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

観点番号	資料番号	添付	別添	資料名
1	1-1-①	○		教職員アンケート 教育課程・学習指導の評価項目 ①各教科等の授業の状況の評価項目
2	1-2-①	○		教職員アンケート 教育課程・学習指導の評価項目 ②教育課程等の状況
3	2-1-①	○		教職員アンケート 進路指導の評価項目 職場体験活動の実施の状況
4	3-1-①	○		教職員アンケート 生徒指導の評価項目 ① 生徒指導の状況 ・ 問題行動への対処の状況
5	3-2-①	○		教職員アンケート 生徒指導の評価項目 ① 生徒指導の状況 ②・ 児童生徒の人格的発達のための指導の状況
7	4-1-①	○		教職員アンケート 健康管理の評価項目 ・ 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己 管理能力向上のための取組の状況
8	4-1-②	○		①新型インフルエンザに対する対応について ②ほけんだより
9	5-1-①	○		教職員アンケート 安全管理の評価項目 ①緊急事態発生時の対応について ②校舎改修等に関わる学校事故防止について
10	5-1-②	○		安全管理 ①緊急事態発生時の対応の状況について ・ 地震・津波避難訓練実地計画 ・ 不審者侵入時の避難訓練実地計画 ・ 不審者マニュアル ・ 放水訓練 ・ 火災避難訓練・工事期間安全教育 9月・1月 実地計画 ・ 火災発生時のマニュアル
11	6-1-①	○		教職員・保護者アンケート 組織運営の評価項目 ・ 校長など管理職が教育目標達成に向け、リーダー シップの状況
13	7-1-①	○		教職員・保護者アンケート 教育目標・学校評価の評価項目 ① 教育目標・学校評価 ・ 児童生徒や学校の実態や、保護者や地域住民 の意見や要望等を踏まえた重点目標の設定



15	7-2	7-2-①	○	教職員・保護者アンケート 教育目標・学校評価の評価項目 ② 学校関係者評価の実態状況 ・ 学校関係者評価の実態システムの確立状況
17	8-1	8-1-①	○	教職員・保護者アンケート 情報提供の評価項目 ・ 情報提供手段として、学校便りやホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況
19	9-1	9-1-①	○	教職員・保護者アンケート 保護者・地域住民等との連携の評価項目 ・ 保護者との連携について
21	9-1	9-1-②	○	教職員・保護者アンケート 保護者・地域住民等との連携の評価項目 ・ 地域住民との連携について
23	10-1	10-1-①	○	教職員・保護者アンケート 教育環境整備の評価項目 ① 施設・設備 ・ 大学と連携した施設・設備の安全維持管理のための点検の取組状況
25	10-2	10-2-①	○	教職員・保護者アンケート 教育環境整備の評価項目 ② 教材教具等 ・ 大学と連携した学習・生活環境の充実のための取り組み状況
27	11-1	11-1-①	○	教職員・保護者アンケート センター的機能の評価項目 ・ 自閉症の児童生徒への指導の研究を深め、AD/HD 高機能自閉症等についての研究や相談の実施状況
28	11-1	11-1-②	○	平成 21 年度 校外支援実績数
29	12-1	12-1-①	○	教職員・保護者アンケート 実地教育の評価項目 ・ 実地教育の受け入れ体制の整備